

第3回長野県小水力活用検討会 議事録要旨

1. 日 時：平成 22 年 10 月 12 日（火）14：00～16：30
2. 場 所：長野県庁西庁舎 301 号会議室
3. 出席者：別紙参照（以下敬称略）
4. 内 容：
 - ・ 池田会長からあいさつ、事務局より、第 2 回検討会以降の経過及び今後の予定についての報告をいただいた後、県から事業を受託した東京発電から調査の詳細についての説明へ移り検討する。

（東京発電 大池副長より実証調査及び導入可能性調査の実施方法について報告）

- ・ プロジェクターを利用し、実証調査業務の計画概要について、（1）実証試験装置の設置場所概要・設置方針・設置概要を地点ごとに、（2）発電方法の検証、（3）賦存量調査の進捗の順番にご説明と質疑を行った。（詳細内容については配付資料参照のこと。）

以下、質疑・検討概要

- （1）実証試験装置の設置場所概要・設置方針・設置概要について地点ごとに説明し、了解を得た。
なお実施にあたって、各地点において以下の意見が出された。

■ 栄村北野天満温泉地点

- ・ 栄村は日本一積雪が多い場所ということで、積雪の影響が懸念される為、考慮する必要がある。
→1 1 月中旬位までに、土木設備（水車以外の部分）を先行して行うなどの工程を検討する。また、設計段階でも積雪に対する考慮を取り入れる。
- ・ 公衆安全の考慮については具体的に何を実施するか？
→人が容易に入れない場所に設置するが、危険と判断した場合は、進入防止の杭等簡易柵をもうける。
- ・ 昼間の電気の使い道は？融雪や温泉施設の看板等町の発展に使えるようにならないか？
→今回の緑の分権の範囲内では、系統連系を行わないことになっている。系統連携を伴う既存施設への供給は今回対応できない。来年度からの使用先については、別途検討を行う。

■ 野沢温泉村まくね川地点

- ・ 今まで滝用水車で提案していたのが、ダリウス水車に変更になっている理由について、変更した理由を村関係者へ説明する為にわかりやすい資料を作成してほしい。
→資料を作成し提出する。
- ・ PR 施設としての実証設備の視認性はいいのか？
→道路から 5 m ほどの設置地点であり、見ることはできるが、更に近くまでいけるように、柵等の安全対策を検討する。
- ・ 設置後のメンテナンスはできるのか？
→村役場の人間が水車にひっかかったゴミを容易に排除し、運転保守できるように設計を検討する。
- ・ 野沢温泉村地点の今後の発展への取り組み事例としたい。
→野沢温泉村には設置検討地点のような落差工が連なって存在している、また、下流には下水処理施設等電気の使用先もある為、住民の理解を得られるような取り組みし、今後更に大きなたくさんもしくは大きな出力の小水力導入に向けた先進事例となるような実証試験設備とする。

■ その他両地点共通事項

- ・ 設備全体を通し周辺環境の整備や、実証試験についての説明看板と出力・電力量がわかるものを設置したいとの要望がでたが、緑の分権業務内で実施が認められるものとそうでないものがある。費用面も考慮しながら、別途協議する。
- ・ 設備を設置する際は、地元の企業や建材等村の資源を極力利用することとする。

(2) 発電方法の検証（万郡沢地点）について現状の課題を報告し、設計計画地点を決定した。

設計を行う地点の選定（①上流・下流の高低差を利用地点もしくは②分水路から下の高低差を利用した地点）について、村としては、「発電量が少なくても、PR用に使用できればよく、わかりやすい見える水車がよい。」との意見および現状の課題を考慮し、②で概略設計を進めることとする。しかしながら、6月の第2回委員会では、①案で考えていたので、検討過程を費用対効果の検討も含め、報告書にのせることとする。

また、②地点に設置することとした場合の設置方法については、河はかなり増水するため、設計時に考慮する。設置する水車は現段階では滝用水車が有力候補である。

(3) 賦存量調査の進捗についてご説明し、質疑を行った。

- ・ アンケートに回答した市町村にとってのメリットはあるのか？
→市町村内でのエネルギー戦略を考えて頂く際に役立たせて欲しい。県の意向を市町村に伝わるようにアンケートお願いの文章を再検討する。

以 上